まちのエンガワ通信 No.51

中野まちのエンガワ・プロジェクト、なかの育フェスへのお問合せ●Eメール／nakanoikufes@gmail.com●Tel090－4712－9319(中村)

募集！なかの育フェス

いよいよ6回目！？

2018年6月23日(土)～24日(日)

場所／なかのZERO西館　1F 美術ギャラリー1
学習室 AB・2F 美術ギャラリー2
主催／中野まちのエンガワ・プロジェクト
なかの ZERO 指定管理者
目的／子ども・子育てをテーマにした
地域のネットワークづくり
企画／中野まちのエンガワ・プロジェクト
子育て支援はぴふる

★出展ブース・WS・展示の申し込み書は
は3月20日まで。

なかの育フェスとは？

●毎年6月に子ども・子育ての楽しい街をめざしているイベント。6年間続けることで発足し、今年はいよいよ6回目。例年参加する団体は40以上、1200人～1500人が来場。●なかのZERO西館を会場に、子育て支援、アート、パフォーマンス、遊び等の内容で様々なコーナー、ワークショップ、講座が並ぶ。●イベント開催時のみならず、年間を通じて、プロジェクトを企画。●その成果は中野区内の地域とつながり、還元をめざし、少しずつ実践を重ねている。

育フェスの魅力はなんだろう？？

●2月7日・21日に「第六回どうする？育フェス」についてざっくばらんにミーティング。【参加費高い?】出展ブースをもって、団体の PR やワークショップ等を行う場合、基本の参加費、出展料（来場者から徴収の有・無での別体系）で2日間で6,000 円～8,000 円かかります。金銭的に採算が合うのか？は各参加団体の判断に任せられていますが、決して安いわけでは有りません。●【自団体の PR だけだと役立たない】直接的な

ひと・いきカフェ エカイエ

エカイエは複数の人達が一緒に支えて創る「カフェ」。育フェスやエンガワ等のコミュニティの活動の拠点にもなっています。
●中野区上高田1－34－1
電話03－3360－3330

お問い合わせはすべて090－4712－9319(中村)まで

●いよいよ本編影絵製作！／育フェスつながりプロジェクト

「決戦！江古田の原っぱ ～のら猫たちのララバイ～」

3月5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)午後7時～

場所　エカイエ

中野の歴史を楽しみながら表現にする試み第三弾。室町時代、応仁の乱が終わったころ、関東でも勢力争いが始まり、「関東の関ヶ原」と呼ばれる決戦が中野で行われたのです。歴史にご興味のある方、影絵や人形劇、語りに興味ある方、冷やかし半分興味本位大歓迎です。

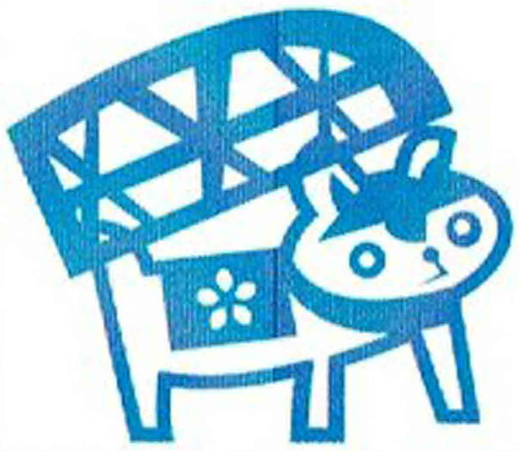
●なかの育フェス運営委員会　第六回のデザイン！
参加団体・会場等の状況がでそろって、いよいよ本番に向けて GO！3月 28 日(水)午後 7 時～　エカイエ

●第六回なかの育フェス　出展者連絡会
4月11日(水)①午前10時半～②午後7時～
参加を予定されている団体は、必ずお集まりください。各連絡事項の他、各会場づくりや、今後の進め方について、具体的に話し合います。（場所はなかの ZERO 西館）

販路拡大や、発表会的に利用しようとしても、あまり効果が得られていないのが現状。●【統一感無い？】無理して一律にするよりも、各自の自主性を活かしながら、できる事を楽しんで行う方向に進んでいます。隙間だらけも魅力の一つと思いたいです。

中野のガイドツアー『ブラ中野計画』進行中

●これまで３年間、中野の歴史トピックスとして、「徳川吉宗の象」「徳川綱吉の犬」を取り上げて、育フェスでも人形劇や紙芝居等を行ってきました。今



回はこれをつなげて、「まちめぐり」に発展させようと試み。題して「ブラ中野計画」。育フェスの財産である自然とアートもつながっったら、楽しい事に！

★育フェスを続けてきたら・・？

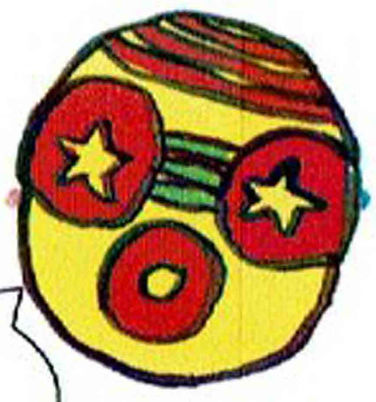
コラム

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」

●苦しいことも過ぎてしまえば、その苦しさや恩も簡単に忘れてしまうということ。英語ではそのような意味を The danger past and God forgotten.（危険が過ぎると神は忘れ去られる）と言うそうだ。英語の方は、より「恩」の方を強調されている。「苦しい時の神頼み」も同じ英語が紹介され、日本での感じ方と若干違う。●ところで「子育ても、有る意味『喉元過ぎれば～』だね。」と、先日の「6回目どうする？」MT で話題になった。ほぼ3年単位で参加者が様変わり。初期に頑張っていた「ママさん」たちが引越やライフステージの変化で参加が減り、徐々に「子育て」終了したシニア層が活躍している。行政主導の「ママフェス」等のように、「子育て中の親達」の支援のみが目的ではなく、「まちづくり」に近い。（左ページの育フェスの目的参照）「まち」と同じで育フェスは何でも入るイレモノだ。

私が聞いた「戦争」とは？WS　報告②

2018 年 1 月 23 日(火)午後 7 時エカイエにて「エカイエワンコイン講座」

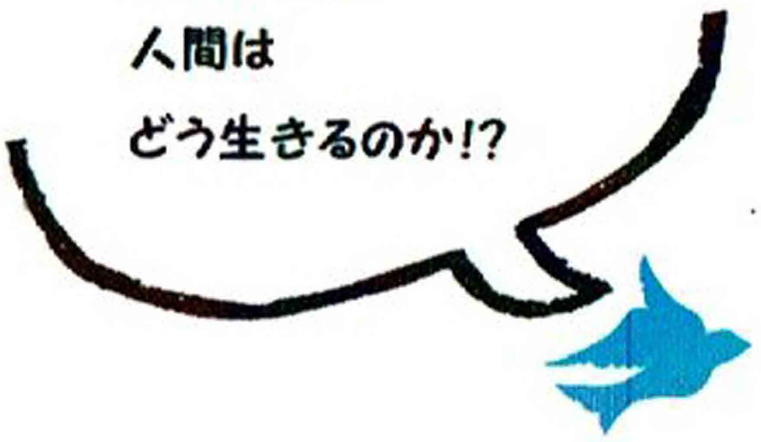


読んでみたよ！
戦争の本特集
次回もつつく

「生きてやろうじゃねえか！」

◆作者は昭和七年生まれで、終戦時に十三歳。戦争に行った訳ではないけど、戦争の有り様をしっかりと理解できる年齢です。その作者が味わった戦中戦後の数々の体験は、「二十歳までにこれだけの体験をするというのはどういうことなのか」、と考えさせられました。◆空襲、家族の死、浮浪児としての生活、と言葉で書くと悲惨なのですが、その悲惨さに包まれているはずの作者の根底に、「生きてやろうじゃねえか」という強烈な意思があり、私はむしろそこに打たれました。（五十嵐）

極限の中で
人間は
どう生きるのか!?



特攻隊でも、絶対戻ってくる！

◆「９回特攻に出撃して９回生きて帰ってきた人」を劇作家で演出家、「第三舞台」の鴻上尚史著。命を消費する日本型組織の立ち向かうには？

講談社現代新書

その時の心情を感じてみる

私たちに今できる事は、
「自分だったら？」と云う問いを
し続ける事かも知れない。